

巻論

最終コンパイル
平成 30 年 4 月 4 日

T.Ueda

目次

第 1 章 圏, 函手, 自然変換	4
1.1 圏に関する公理	4
1.2 圏	5
1.3 函手	5
1.4 自然変換	5
1.5 モニック射, エピ射, ゼロ射	5
1.6 基礎論	5
1.7 大きな圏	5
1.8 Hom 集合	5
第 2 章 圏の構築	6
2.1 双対性	6

第1章 圏，函手，自然変換

1.1 圏に関する公理

定義 1.1.1 (メタグラフ).

メタグラフは対象 A, B, C, \dots ，射 f, g, h, \dots ，および次の2つの演算からなる．射 f が対象 A から対象 B への関係を示すものであるとき，

$$f: A \longrightarrow B \quad (1.1)$$

または

$$A \xrightarrow{f} B \quad (1.2)$$

で表す．このとき， A をドメイン， B をコドメインという．これらは dom ， cod を用いてそれぞれ

$$\begin{aligned} A &= \text{dom } f \\ B &= \text{cod } f \end{aligned} \quad (1.3)$$

で表す．

ある射 f および g による合成演算 \circ は

$$A \xrightarrow{f} B \xrightarrow{g} C \quad (1.4)$$

に関して

$$A \xrightarrow{g \circ f} C \quad (1.5)$$

で定義する．メタ圏における演算則は次の公理に従う．

公理 1.1.1.

1. 結合則

$$A \xrightarrow{f} B \xrightarrow{g} C \xrightarrow{h} D \quad (1.6)$$

が与えられた時, 次の等式が常に成り立つ.

$$h \circ (g \circ f) = (k \circ g) \circ f \quad (1.7)$$

これは図を用いて, 次のように表現できる.

$$\begin{array}{ccc}
 A & \xrightarrow{\begin{array}{l} h \circ (g \circ f) = (k \circ g) \circ f \\ g \circ f \quad k \circ g \end{array}} & D \\
 \downarrow f & & \uparrow k \\
 B & \xrightarrow{g} & C
 \end{array} \quad (1.8)$$

2. 単位元律

$$1_b \circ f = f \quad g \circ 1_a = g \quad (1.9)$$

$$\begin{array}{ccccc}
 A & \xrightarrow{f} & B & & \\
 & \searrow f & \downarrow I_b & \searrow g & \\
 & & B & \xrightarrow{g} & C
 \end{array} \quad (1.10)$$

1.2 圏

1.3 函手

1.4 自然変換

1.5 モニック射, エピ射, ゼロ射

1.6 基礎論

1.7 大きな圏

1.8 Hom 集合

第2章 圏の構築

2.1 双対性